

五箇地区むらづくり推進協議会

1 基本データ

- (1) 地区名 五箇地区
- (2) 地区人口 57人
- (3) 地区世帯数 30世帯
(平成29年1月1日現在)

- (4) 地区面積 約155k㎡

- (5) 地区の沿革

五箇地区は、上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落（行政区）で構成され、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連邦、岐阜県に接し、面積は146k㎡と広大な林野を占める中山間地域である。



- (6) 実施主体
五箇地区むらづくり推進協議会

2 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるととも

に、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業（現在は1軒が営業）が盛んに行われ、一年を通じて賑わいの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が再編計画の中で順次廃止され、地域の活力は衰退していった。

現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に31世帯58名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されている。



また、本協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって30年ほど前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいるところである。



地区住民が手入れしている花壇

3 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、住民協働による故郷の環境保全と交流人口の増加による地域の賑わいづくりをテーマとし、雑草が生い茂り、埋もれかけた湧水地や不法投棄されたゴミに汚された用水路に階段や遊歩道を設け、来訪者が清流を楽しめる親水空間として再生した。さらに、“桃源郷”と表現される花桃並木を核に、地区全体に花が咲き誇る花木の里づくりにも取り組んだ。

また、五箇公民館の北側、花桃並木に続く西勝原区の共有地には、地区住民や五箇地区に縁のある人たちによって植樹された花桃やツツジ、ヤマボウシのほか、花壇には季節の花が咲き誇る。来訪者が五箇の自然を楽しめる園地の整備を図ってきており、特に、4月中旬からの桜、それに続いて花桃が満開を迎える5月上旬にかけては、大勢の見物人で賑わうことから、「越前おおの地域づくり交付金事業」を活用した環境整備を進めてきたところである。

平成25年度から3年間の「結の故郷づくり交付金事業」では、これまでの取り組みを継続しながら、園地の一層の充実と来訪者の利便性向上のため休憩施設（東屋）を設置することにした。



【花桃園地整備 (H27)】

休憩施設（東屋）完成

また、平成27年度には、休憩施設（東屋）の完成にあわせて、花桃を地区内外に広く情報発信し、地区住民の連携と親睦を深めるとともに交流人口に増加による地域に賑わいを促進することにより、地区の活性化を図ることを目的とし、「五箇のお花見会」と銘うったイベントを

開催した。



賑わう花桃並木

今年度も花桃イベント「五箇のお花見会」をさらに盛大に開催するため、駐車場の確保やそこから会場までのシャトルバスの運行、案内看板の充実等を図ることにより、来訪者の利便性の向上に取り組みとともに、多彩なイベントを実施することにより、地域の賑わいを創出した。

花桃イベント開催事業「五箇のお花見会」

開催日：平成28年4月24日（日）

今年は、積雪が少なく春の訪れが早かったため、花桃の開花も早く、満開を少し過ぎた花の状況となったが、4月24日（日）には、以前に開催していた「お花見茶屋」や前年度に試行的に取り組んだ「お花見会」イベントをさらにグレードアップし、「五箇のお花見会」として五箇地区を挙げての花桃イベントを開催した。

当日は早朝から、地区住民をはじめ各団体等の協力を得て、会場設営を行い、10時のオープニングから、寄せ植えや花桃マグネットづくりなどの多彩な体験コーナーや、食のコーナー、物販コーナー、などを開催した。

また、地区住民の手作りの「ふるまい鍋」のふるまいや、五箇地区に伝わる神子踊りが披露され、地区住民や五箇地区に縁のある方々、観光客など大勢の方に楽しんでいただき、終日賑やかにイベントを開催することができた。



会場設営（テント張り）の様子



大勢の来訪者で賑わう会場



会場入り口看板



旧カドハラスキー場駐車場から会場までシャトルバスを運行



春の花の寄せ植え体験



食のコーナー



抹茶体験



物販コーナー



花桃マグネットづくり体験



地区住民手作りの「ふるまい鍋」は大盛況



かざぐるまづくり体験



花桃紅茶の試飲



五箇地区に伝わる神子踊りの披露

4 事業の成果

近年、五箇地区の花桃並木は、テレビや新聞などで報道される機会が増え、見物に訪れる人が年々増加している。

花桃園地やその休憩施設は、地区住民が集う場となるだけでなく、市内の保育園や老人施設等の園外活動、県外からの花見客などが散策の合間に一息入れる休憩処となり、地区住民と訪問者とが交流する拠点として活用されることが期待できる。

また、イベントの開催は、地区住民がさまざまな形で参加し、地区内の交流を深め、一体感を生み出す機会になるとともに、交流人口の増加は、地区の活性化に寄与するものである。

5 今後の展望

花桃園地の整備が完了し、それを活用したイベントの開催は、地区住民をはじめ、五箇に縁のある方々にも、「五箇の良さ」を再認識することとなり、また、多くの来訪者を受け入れることで、地区に賑やかさを創造することができた。

人口減少や高齢化の進行による地域の減退を少しでも食い止めるため、今後も地区の“宝”である、花桃を核とした取組みを継続し、住民と来訪者が交流する機会や場を充実することで、そこから生じる賑わいが“ふるさと五箇”の活力となることが期待される。

また、このイベントの開催だけではなく、公民館事業でも、寄せ植え体験講座や花桃園地を活用したガーデニング講座、花桃の種植え体験講座等に取り組み、参加者に自然に親しんでもらうとともに、花桃や花桃園地への関心を高めてもらえる機会を提供するなど、情報発信に努め、さらなる交流人口の増加による地域の活性化を図る取組みを展開していきたい。



公民館講座「ハナモモの寄せ植え体験」